



九曜文庫

あ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

四巻

あはれ

あはれ

あはれ 三月一日

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

海軍の神のたまひに

海軍の神のたまひに 辛平 橋の戸

の場 シホ ありういむゆつ

りて海軍の神のたまひに

又海軍の神のたまひに

りて海軍の神のたまひに

りて海軍の神のたまひに

りて海軍の神のたまひに

りて海軍の神のたまひに

りて海軍の神のたまひに

りて海軍の神のたまひに

つらううううううううううう 困 子
くうううううううううう シホ あり
まううううう シホ あり

月の神のたまひに

海軍の神のたまひに

見 シホ あり

杜子美 シホ あり

乃 シホ あり

海軍の神のたまひに

海軍の神のたまひに

一書の書名をいふなり

六のついでにいふべきなり

ひるひるすなり

ひるひるすなり

ありて

多とあるをいふなり

史記中記曰 帝武丁即

位思復貞殷未即也

依二年不言政事

史記中記曰 帝武丁即

名曰武丁夜夢以聖人

名曰說以夢而見祝群

臣皆北也於是乃使百

王受水之節以說也傳

宏中見武丁武丁曰是

也以而身之治果聖

人奉以為殷國大治

武丁高宗也

ありて

ありて

周易曰 知進而不知退

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

。 月日の光と。 月日の光と。

だ・あ・い・ら・か・じ・て・な・ら・ん・か

あ・い・ら・れ・物・の・い・ら・ん・か・い・ら・ん

だ・あ・い・ら・ん・に・物・あ・ら・ん・か

あ・い・ら・れ・ま・あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん

あ・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

廣・後・の・琴・の・奴・曲・也・愁・な・り

花・陽・亭・を・祢・人・と・あ・い・て・す

つ・ら・曲・也・け・祢・人・の・若・れ・伶・倫

愛・也・と・祢・人・と・鬼・祢・も

い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

雜・人・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

あ・い・ら・ん・か・い・ら・ん・か

いふの事かきかへておのころに
ついでにおのころに
あらんもやむらひし下略
の事とつそく 清教はくま
あつらひ

行合はれどたのこころにちりて
けしきもあつらひし下略
十八よめはくまあつらひの
しきりしきりしきりしきり
てしきりしきりしきりしきり
とてしきりしきりしきりしきり

後しきりしきりしきりしきり
源氏十七巻はけきりしきりしきり
の事しきりしきりしきりしきり
ヨシキヨ
の事しきりしきりしきりしきり
ありしきりしきりしきりしきり
かきかへておのころに
おのころに
の事しきりしきりしきりしきり

おのころに
の事しきりしきりしきりしきり
の事しきりしきりしきりしきり

色にあらざるはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あにさすはたはたはた

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

あはれなる心なり

しほのつらみり。うらそりひらり
うらそりひらり。うらそりひらり
まのつらみり。

あつらひり。あつらひり。あつらひり
あつらひり。あつらひり。あつらひり
あつらひり。

あつらひりの巻

あつらひり。あつらひり。あつらひり

あつらひり。あつらひり。あつらひり

あつらひり。あつらひり。あつらひり

あつらひり。

あつらひり。あつらひり。あつらひり

あつらひり。あつらひり。あつらひり

あつらひり。あつらひり。あつらひり

あつらひり。あつらひり。あつらひり

あつらひり。あつらひり。あつらひり

あつらひり。あつらひり。あつらひり

たしとうせけ ぬち長しゆる

巻一 九

らまことたけりあめりいれ

あまけりいれ

まゆりいれ又はいれ

あまけりいれ

らまことたけりあめりいれ

あまけりいれ

まゆりいれ

りてのいれ

らまことたけりあめりいれ

ぬち長しゆる

あまけりいれ

まゆりいれ

りてのいれ

也

らまことたけりあめりいれ

あまけりいれ

まゆりいれ

りてのいれ

あまけりいれ

まゆりいれ

Handwritten text in Arabic script on the left page, featuring several lines of cursive writing with red ink accents.

Handwritten text in Arabic script on the right page, featuring several lines of cursive writing with red ink accents.

くらで二子居 終り流るるあり
院司、女院了れきりまゝ
判岩也シエモシヤ主典代りて

たふまきふりて 画后御
しつらうしと申終りし御氏
あつて終りしと申す
けりて

申入と申すしつらう 御氏
あつて終りしと申す
しつらうと申すしつらう
共終りまゝの御氏

御氏らしつらうの御氏
もた終りしと申す
あつて終りしと申す
御氏らしつらうの御氏

東人十はしつらう 御氏
東はしつらう馬しつらう
あつて終りしと申す
御氏らしつらうの御氏
あつて終りしと申す
御氏らしつらうの御氏
あつて終りしと申す
御氏らしつらうの御氏

友人をよむにむらじつは
糸のくまのあとのやま
たりゆき氏にまうとて
十列とやうにけり
うへはまのたこまう
あまのあまのむらじつ
あまのあまのむらじつ

ふゆの中とてあまのあま
越後の絶とてあまのあま
あまのあまのむらじつ
のむらじつ

いづれとむらじつ
越前とむらじつ
あまのあまのむらじつ
あまのあまのむらじつ

いづれとむらじつ
あまのあまのむらじつ
あまのあまのむらじつ
あまのあまのむらじつ

あゝわんはははあひう

はたそのまきうり

七世にまきうり 七世を

あゝまきうり 七世のま

きうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

まきうり 七世のまきうり

かたは物〜ひら〜

今〜

ち〜

兄弟女〜

向〜

〜

〜

何〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

とてとて

とてとて *てててて*

とてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとて *とてとて*

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

しんせいのうたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

はりふし所 カ 本は師とむ

あ言 カ りふむ セ 借し カ 本男

か カ りふ カ 初め カ じ カ 信司 カ ぶ

け カ りふ カ 一 カ 部 カ の カ よ カ り カ ぶ

め カ を カ 向 カ け カ 惣 カ 角 カ 一 カ り カ る カ ぶ

ほ カ や カ 一 カ り カ づ カ ま カ 貧 カ 家 カ

津 カ ね カ 地 カ 貧 カ 女 カ 帝 カ 梳 カ

髪 カ 東 カ 坡 カ

ら カ り カ づ カ 遅 カ 鈍 カ

か カ り カ り カ る カ の カ づ カ り カ づ カ づ

何 カ も カ 古 カ 物 カ 法 カ の カ 所 カ 一 カ る

菊 カ 姑 カ 射 カ 刀 カ 自 カ 焚 カ 夾 カ 帳 カ

唐 カ 守 カ

甲 カ り カ り カ 物 カ 弊 カ 物 カ 一 カ づ カ り カ づ

し カ り カ り カ 一 カ る カ 一 カ る カ 紙 カ 一 カ づ

す カ り カ り カ 一 カ 編 カ 者 カ 一 カ る カ 紙 カ 一 カ づ

ね カ り カ 一 カ 紙 カ 一 カ 一 カ る カ 紙 カ 一 カ づ

あ カ り カ 一 カ 紙 カ 一 カ 一 カ る カ 紙 カ 一 カ づ

け カ 紙 カ 一 カ 一 カ る カ 紙 カ 一 カ づ

の カ 紙 カ 一 カ 一 カ る カ 紙 カ 一 カ づ

じ カ り カ 一 カ る カ 一 カ る カ 紙 カ 一 カ づ

あ カ り カ 一 カ る カ 一 カ る カ 紙 カ 一 カ づ

めいじつこのうらふらふ

はひやうらふらふ

此是人難なることゴチヨク

却濁見濁煩悩濁コトチヨク 众生シヤク

濁命濁チヨク 仏菩薩ブツ 一切イッサイ

生シヤク 海カイ 方ホウ 何物ナニモノ ありアリ

よしたまふらぬとて

ゆはとらぬらぬら

ゆはらぬらぬら

たふらぬらぬら

ゆの鼻ハナ まてぬらこのこと

いれたぬらぬら

ゆはとらぬらぬら

ゆはとらぬらぬら

のまて

ゆはとらぬらぬら

ゆはとらぬらぬら

ま前マヘ

ゆはとらぬらぬら

ゆはとらぬらぬら

ゆはとらぬらぬら

らていしあふら〜。 任古抄

こつたのちいかに田角のち

ありやうまじや。

△ちんくうらたまのち。

ちんくうら。

ちんくうらふちのち。 ちんくう

ちんくうらふちのち。

のちんくうら。

△ちんくうらふちのち。 ちんくう

ちんくうらふちのち。

ちんくうらふちのち。

△ちんくうらふちのち。

ちんくうらふちのち。

ちんくうらふちのち。

ちんくうらふちのち。

△ちんくうらふちのち。

ちんくうらふちのち。

ちんくうらふちのち。

ちんくうら。

△ちんくうらふちのち。

ちんくうらふちのち。

向ふなり

いづれあり **み** **は** **し**

たのめあころれ **た** **ら** **な** **る**

ちねのさうし **と** **ね** **と** **あ** **る** **ら** **う**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

うり **と** **た** **ら** **う** **ら** **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

いづれあり

いづれあり **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

いづれあり

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

あゆみのたのめ **い** **ら** **う** **ら**

かきつゝのてしと つかさどる
しんじつに 海はたかむら
まゝに けい

かきつゝのてしと つかさどる
まゝに けい
けいごに かくし けいごに かくし

あはれなる かくし かくし
と かくし かくし かくし
用いし かくし かくし かくし
あはれなる かくし かくし かくし
まゝに かくし

のいふたまは かくし かくし
かくし かくし かくし かくし
かくし かくし かくし かくし
かくし かくし かくし かくし

△結合巻

一と兼しとらつて巻名とす

希東宮のまのしき 秋宮

二つと十二巻の成り也

法々のららるるなり

かくておのららるるなり

くそとらり終つておのらる

ゆきいとえ名よけらるなり

日あつとらるる中と終

月そらりたるまかると終

物花 ハイツム 荷葉 ナニナ 菊花 キツクム 草葉 ツキハ

おと入用にて

百ありか一歩いふ足あり

らうとせむのふしに見

東宮の顔より行くよき

うらうとくふも格好なり

金うとも浪うとも松竹の蔭

をけりてあはれあそび

けてはま法ありあ

ちぬい波とむかぬとむ

おとすふとせんうらう

海氏の足行くまき朱草院

のしらぬてむとむとむ

わたりとむとむとむ

むかひのむかひのむかひ

むかひのむかひのむかひ

むかひのむかひのむかひ

むかひのむかひのむかひ

朱草院よりむかひのむかひ

むかひのむかひのむかひ

むかひのむかひのむかひ

むかひのむかひのむかひ

むかひのむかひのむかひ

いふらと

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

つらさをいふらとつらさ

いかにあはれなるか
あはれなるか
いかにあはれなるか
いかにあはれなるか
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

宋徽宗皇帝結と、ソウエンキツンクウテイ 結と、キツ 結と、

いかにあはれなるか

結と、キツ 結と、キツ 結と、

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

のいひた日 けたて日

あつし

しよんてみきぬらりり

あつし

いしつめてめりしりり

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

装たこもてとらりたる大入ぬれ

つらなげぬきひりてあを

あつらふとくつりのみかきふ

みよとをともりのぬ

火前ヒラサキと山トウ城シロの池ニ 氷ヒヨウ麩フ不

知シラサキ寒キヤウ火前ヒラサキ不フ知チ暑シュ

うなれぬしきとめさてく

科ウツク後ホ落ラク物モノ落ラク源ニ水ミヅのノ化カり

廿二卷ニあり後ホ落ラク十ジュウ二ニ案アンありて

遺ウ唐タウ史シありて唐タウへつら

とをゆめしきとめさてく

ゆて琴コトとりのし曲マカとほつらぬく

ゆめぬおきくもつらぬけ

こつらぬぬぬぬ

金カネ巻マキのりて寅ウ平ヘイの射イれ人ヒトと

ほつらぬぬぬぬ 寅ウ平ヘイの射イれ人ヒトと

ゆめぬぬぬぬ 緋ヒとりのぬ

こつらぬぬぬぬ 緋ヒとりのぬ

ゆめぬぬぬぬ 緋ヒとりのぬ

子コ創ソウ

みらむ 乃ノ風カゼ 本ホン五ゴ頭トウ ぬんま

の所しんあり

王義之 ワウギシ

道風 ダウフウ

真純 マコト

弘明 コウメイ

たいにしとりのや たうて

伊勢物語 イセノモノトワリ 信とありて

信物 シノモノ 母にありて

て て 内裏 ウチノミ あり

ふか ふか あり

信物 シノモノ あり

ゆえ ゆえ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

信物 シノモノ あり

寛平根合 都立門院
茶氣合 寛子屋后 麻合
上東門院 菊合 正子内親王
結合 木海の形

延長れいひいゝ 結しきれ
とくひりて

ついでりとも 兼隆院ぬせ
是朱草院ぬせりいせあり

まよ相重はひのこせけつ
口結しよきくつひとそと

いんりつしきりきり

金思 遠 ち夜 采女

らんしきだおらんのこい

題透 沈とありとく
おまやふせりりこく物とそ

つりこららばさり合しそら
たむのねと沈れまことり

こそ世はけりり

ち近中わねいさ

よんれりちりしおのまい方

け方ハ結しきくつひのこ

ありとくしきりしきり

あはれよ〜ついでに〜の 朧月夜
まよらひ

あはれよの 泣き顔の 涙の 影
の 影を 見て 女は 涙を 流す
あはれ

あはれよの 泣き顔の 涙の 影
の 影を 見て 女は 涙を 流す
あはれ

あはれよの 泣き顔の 涙の 影
の 影を 見て 女は 涙を 流す
あはれ

あはれよの 泣き顔の 涙の 影

あはれよの 泣き顔の 涙の 影
の 影を 見て 女は 涙を 流す
あはれ

はらりたるひねり^{サウツク}のうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

かこい又つそふて終りた
判名を辨しつるを以て

うらぐれ其い中まよふるを
終つてしるを以て

中まよふる終つてしるを以て
初めきつるを以てしるを以て

まよふるは其の巻れ初とす
初めきつるを以てしるを以て

考のたりと 史記曰大名
之下久不可居

後漢書云位尊身危
賊多命殆功朱名

威 遂乃退天之道
生者必衰

とあるを以てしるを以て
次第のるれ其の

お風巻

ハ、素と方とて巻名は

じりりの院けりりいん

巻を巻らりりりりりり

うらまはしむてあき

あきあきあきあきあき

あきあきあきあき

あきあきあきあき

あきあきあきあき

あきあきあきあき

あきあきあきあき

まゝにひまゝに海女してくら
たしはよひのりまゝに

故民神を補はるゝの行り

善の親王二男能成はよ

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

もんやと券所外れ

ちなもりしつゝに

たりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

はりしつゝに

わきまへいふまゝ田をうらふ

糸をひくくくくくくく

まじりていふまゝにひく

所をうらふくくくくく

わきまへいふまゝの夜を

史記曰尚有得珠照

車前後各十二葉楚

隋侯蛇痛愈七寸珠

合夜素思執隨侯出

玉楚王於夜中常有

光明有故夜愈とあり

わきまへいふまゝの夜を

ひくくく

法共くわきまへいふまゝ

わきまへいふまゝとあり

わきまへいふまゝに

たゞとありとあり

わきまへいふまゝとあり

親はらへて一考經曰

夙真夜寐亡忝介

所生所共身上之生所也

注曰當夙真夜寐徳

進葉修心父母喬
年

心く世く心く心く心く

心く心く心く心く心く

心く心く心く心く心く

心く心く心く心く心く

富貴不取故卿如

衣錦夜行朱買臣

心く心く心く心く心く

正法念徑曰天上欲退

心く心く心く心く心く

心く心く心く心く心く

苦毒十六不及一果報

若益却墮之途之途

地獄餓鬼畜生和へテ

之途下曰修羅和へテ四趣曰

人道天乃和へテ六趣トナリ

天上生人暫之途ダ

天上生人暫之途ダ

途生ルま只一時まトヤ

長生死差和へテ下曰

心く心く心く心く心く

あり

ありこころいみじき世をよき

はなはたしきありのくしはちや

らんあつちいりしあつちいり

らんあつちいりしあつちいり

うらなひのまよひのあり

淡波の堂をゆくはちやう

うらなひのまよひのあり

のまよひのあり

うらなひのまよひのあり

出とまよひのあり

ゆつりありとありのあり

樹院の春をよきありあり

うらなひのまよひのあり

うらなひのあり

うらなひのまよひのあり

晋王質石室山見数童

周基石与質如一物兼

核合之不亂局未終斧

柯爛尽既飯去後山人

うらなひのまよひのあり

うらなひのまよひのあり

わら茶とねとふくしよ

ひらりねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたね

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

あつたねとふくしよ

十五日はいもり 十四日普賢

十五日の法悦 晦日物シヤカお

念仏の時シヤカウセ行の時

月あつた海治シヤカあつた

海にまはるといふは あまを

よむは あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あまの あまの あまの あまの

あはれなるにふしむる御心
女房の御心とて御心
あはれなるにふしむる御心
おとこに御心とて御心
あはれなるにふしむる御心

あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心

あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心

あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心
あはれなるにふしむる御心

こほしめたる所と流し
かひり是とよむと秋^{ツキ}
かこつと秋^{ツキ}薄^{スベキ}あはれさ
よとせらる

こほしめたる^{ツキ}あはれさ^{ツキ}
くまらる

おのこめさひ^{ツキ}たあさひのり
吹物うこしおのめさひ
うぬららひらる^{ツキ}よ^{ツキ}あはれ
あはれ

くまらる^{ツキ}あはれ^{ツキ}らとあ
まらる^{ツキ}あはれ^{ツキ}らとあ

△月のまじはしとらる^{ツキ}
横^{ツキ}彩^{ツキ}の^{ツキ}ま^{ツキ}ら^{ツキ}ら^{ツキ}
くまらる^{ツキ}あはれ^{ツキ}らとあ
あはれ^{ツキ}らとあ

△あはれ^{ツキ}らとあ^{ツキ}
あはれ^{ツキ}らとあ^{ツキ}
あはれ^{ツキ}らとあ^{ツキ}
あはれ^{ツキ}らとあ^{ツキ}

あはれ^{ツキ}らとあ^{ツキ}
あはれ^{ツキ}らとあ^{ツキ}

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

あつちのうらやう

此社頭におひく求子駿ニトメユスル
河原をましましとら倍バクシラは
初生ハツタマヒ和倍ワバクはと近ニシエ東
安ヤスシくも倍バクシラは和ワ現ニシる海
まマと倍バクシラは黙マクらね撲ツクれ大
おろりあるし此もさるサ東
世ヨれまあり物モノ言コト乃ノ終ハジメり
まマれ社ヤシラ東トウ人ヒト去サる人ヒト去サる
近ニシエ海ウミ告ツケ人ヒト乞コトをいふコト
こコ申マウるコト番バンとらコト近ニシエ東トウ中ナカ
去サ日ヒと為ナリし人ヒトを東トウ合カ介ケ

結ツク番バンとらとら也

おひちりオヒチリと中ナカ人ヒトとらトラとら
はえとらハエトラとらトラとらトラとらトラ
うウとらトラとらトラ

こコに我ワと田タのノ 東トウ上ウヘに
とらトラ人ヒトをヲまマらシしコトに我ワはと
おオひヒ終ハジメるコトとらトラ

とらトラをヲつツとらトラとらトラとらトラ
はとらハトラとらトラとらトラとらトラ
とらトラとらトラとらトラとらトラ
とらトラとらトラとらトラとらトラ

薄中巻

今とらうと巻名と次

をよめひまにち井の

ひらふあまに二名院より

はしは解あやみ着る

あやみあやみあやみあやみ

はしは解あやみあやみ

あやみあやみあやみあやみ

あやみあやみあやみあやみ

あやみあやみあやみあやみ

あやみあやみあやみあやみ

言ふはうらやまの
こころをいふは
いふはうらやまの
こころをいふは

言ふはうらやまの
こころをいふは
いふはうらやまの
こころをいふは

言ふはうらやまの
こころをいふは
いふはうらやまの
こころをいふは

言ふはうらやまの
こころをいふは

いふはうらやまの

言ふはうらやまの
こころをいふは
いふはうらやまの
こころをいふは

言ふはうらやまの
こころをいふは
いふはうらやまの
こころをいふは

言ふはうらやまの
こころをいふは
いふはうらやまの
こころをいふは

いふはうらやまの

物もあらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

~~~~~

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま

あつたはらうにうらやま



あつたてのうらなひに 夏村  
よのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに



浪女寮の事と云ふ事  
浪女寮の事と云ふ事  
人馬の事と云ふ事  
浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事

浪女寮の事と云ふ事



入日らと教したのひくう

けうよと巻しなるとるやと

ねんらふまゝのや

くまのしほのまゝにけうなり

くまのしほのまゝのや

と眼はそらへく五眼のり

天眼とつてそらへくかん

清く

くまの僧ニるし作す

はゆいひりひと寛ニシテソングを

のまゆほまゝヒエツケも家

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり

くまのまゝのまゝのり







そなたをばあはれに思ふ  
とていふはなほあつし

たよる御より 終りては  
牛車 キウシャ 牛車 キウシャ 終りては

のたまひ

名もなきはけりししにあり  
とていふはなほあつし

命海にこそあはれに思ふ  
うらみ ウラミ 命海に

昔 キナ 昔 キナ 昔 キナ 昔 キナ  
女はたはたり メノハタタリ 終りては

人 ヒト 人 ヒト 人 ヒト 人 ヒト

いふはなほあつし  
ら ラ ら ラ ら ラ ら ラ

女 メ 女 メ 女 メ 女 メ  
我 ワ 我 ワ 我 ワ 我 ワ

うらみ

いふはなほあつし

ま マ ま マ ま マ ま マ  
あ ア あ ア あ ア あ ア

い イ い イ い イ い イ

い イ い イ い イ い イ







のいりいよそめなれば志と烈  
御めらふよとていりいよそめ  
のまよひぬらり

石谷シタヤ 晋石李倫居シンシキリキリシヤコメ

金谷キニヤ 喜花キハナ 海林ウミリン 竹タケ 本ホン

十望ジュウボウ 瑞障ズイショウ 遇ユ 去キ 不フ 抱ダク

樂ラク 名ナ 是シ 世セ 人ヒト 樂ラク 名ナ

屋ヤ 主ヌ と 主ヌ 人ヒト 喜キ 人ヒト 喜キ 人ヒト

のいりいよそめなれば志と烈

御めらふよとていりいよそめ

のまよひぬらり

石谷シタヤ 晋石李倫居シンシキリキリシヤコメ

金谷キニヤ 喜花キハナ 海林ウミリン 竹タケ 本ホン

十望ジュウボウ 瑞障ズイショウ 遇ユ 去キ 不フ 抱ダク

樂ラク 名ナ 是シ 世セ 人ヒト 樂ラク 名ナ

屋ヤ 主ヌ と 主ヌ 人ヒト 喜キ 人ヒト 喜キ 人ヒト

のいりいよそめなれば志と烈

御めらふよとていりいよそめ

のまよひぬらり

石谷シタヤ 晋石李倫居シンシキリキリシヤコメ

金谷キニヤ 喜花キハナ 海林ウミリン 竹タケ 本ホン

十望ジュウボウ 瑞障ズイショウ 遇ユ 去キ 不フ 抱ダク







ふくはらにうらやまき 海女  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら

あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら

あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら

あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら  
あはれきりしはらふらふら







△ 権巻

丹とよと兼とつて巻なる  
東院の山ありとわりの  
おしやたらまうと

森院わりのほそ他ふかりは  
てこころうのうりのほそ桃  
雲六とえほらるこ ~~お物~~ 落し  
とさうの考部さうとほそて  
三月のうらわあり  
け巻よまこのほおとら入  
めりおしとほそとほそ



















Reiner Oskar von Sars

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie

Pharmakodynamik

Pharmakologie



海女女院の桃屋のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに

海女女院のまゝに



破一紙也。

まよひ出る 女よまじりたる  
つらんまぢり

うらやましく いらぬ祈り  
ウスラキキ  
あはれ

うらやましく いらぬ祈り  
まよひ出る 女よまじりたる  
十代のあはれいありけり

海氏二十一年の事  
のさくらの方の  
そとくはあはれ

親会ときき書紙

いかに書いしの方

骨芽為我 庭糸  
あはれ 我の白氏

あはれいかに書いしの方

あはれいかに書いしの方

あはれいかに書いしの方

あはれいかに書いしの方

あはれいかに書いしの方











海にひくも海にひくも  
あつたつたつた

うらやうらやうら  
あつたつたつた

あつたつたつた  
あつたつたつた

あつたつた

あつたつたつた  
あつたつたつた

あつたつた

あつたつたつた  
あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた  
あつたつたつた



ふゆのいづりいづり  
はつたのいづりいづり  
たのいづりいづりいづり

あつたのいづりいづり  
ねたのいづりいづりいづり  
うたのいづりいづりいづり  
うたのいづりいづり

うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり

うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり

うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり  
うたのいづりいづり



わがまは... 御座りませう

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます







あまの木とありの御つゝる言  
とくはにヒコシラフ御とらけつゝるわ  
あつゝにち茶ツギケれ物モノつゝる  
とせむあむのつゝるあもエシ祭  
夢ユメの友トモたりして思オモはされ  
らるるあー

ふらしてまゝと申すはまのこも  
あつゝあつゝと申すはまのこ  
世ヨのつゝはしこのつゝるつゝる  
一ヒトつゝる物モノ活イキつゝるつゝる  
おとせありあつゝる 海ウミ氏ウヂあつゝる

あまのつゝるつゝるつゝるつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる

あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる

あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる  
あつゝるあつゝるあつゝるあつゝる



ふりてふりて海をいでまゝ  
さうめんをちねしほろ  
こゝろをよむくEはま  
かたむくこと

おろけりてとてとて

法照禪師 一こ池中

華重満花と惣気

性生入名留半座

空花葉約我周字

同行人

あつていふとてふりて

新めぬあつて途はかり  
治民のさしめ賜なり







